

第8回 北九州市迷惑行為防止推進協議会 議事要旨

- 1 日 時 平成22年8月24日(火) 10:00~11:50
- 2 場 所 北九州市役所本庁舎5階 特別会議室A
- 3 議 題 会長及び副会長選出、事業実施状況・事業計画の報告、
北九州市迷惑行為防止基本計画(案)審議 他
- 4 出席者 大坪委員(会長)、豊川副会長(副会長)、太田委員、加藤委員、久保委員、
後藤委員、嶋田委員、鷹野委員、中村委員、山縣委員
- 5 議 事
 - (1) 会長に大坪委員、副会長に豊川副会長を選出した。
 - (2) 事業実施状況、平成22年度事業計画について、事務局から経過報告を行い、その後意見交換を行った。委員の主な発言概要は次のとおり。

落書き消去活動について、一度消してきれいになったところにまた描かれるケースもあるが、現状はどうか。

過去に、西日本工業大学の学生に商店街のシャッターに絵を描いてもらい、それ以降落書きがなくなったケースもあるが、そのような取組みは検討できないか。

過料処分件数は市外の人割合が約40%と多いが、市外向けの広報はどのように行っているのか。

巡視の時間帯、巡視員の増員計画について教えてほしい。

予算については、目的達成のためにポイントを絞って無駄のない執行が求められるが、その内訳について伺う。

落書きを一旦消したところの周辺を皆で清掃しており、そのような場所では再び落書きをされていない。決められたところだけではなく、地域で消そうという運動が起こってくれば、なお地域に普及していくと考えられる。

(3) 会長まとめ

小倉駅周辺にいらっしゃる方は、市外より市内の方が多いと思う。それにも関わらず市外の方の割合が4割を超えているのは、市外の方が条例を知らないで過料を徴収されているケースが多いと思われるので、路面表示、PRなどには一層力を入れてやってほしい。

(4) 「北九州市迷惑行為防止基本計画(案)」について、事務局が説明を行い、その後意見交換を行った。委員の主な発言概要は次のとおり。

今回の基本計画の計画期間は平成22年度から26年度までの5年間となっているが、計画(案)に書かれているのは、どちらかと言えば平成22年度にすでに動いている事業を掲示していると受け止めてよいか。

これらの取組みにより、北九州全体のモラルマナーがよくなったどうかを判断するためには、毎年行っている市民アンケートなど、全市的な状態の変化を確認する指標はあるか。

事業が多岐にわたっているため、各部署が独立して事業や広報を行っていると思うが、まとめられる事業や広報は部署間の連携をとり、まとめて行った方がよい。

マナーアップ週間などの時期に、関係各部署・団体が一緒に行動することにより、マスコミに取り上げてもらうなど、お金をかけない広報も可能になるのではないか。

基本計画に基づく毎年度の計画には、具体的な目標設定が必要である。費用対効果を考える上でも、スケジュール、数値目標などを是非いれていただきたい。

一番大事なものは教育であると思う。学校教育や幼児教育の中でモラルやマナーを教えることがなければ、大人になってからは、現実問題なかなか難しいと思う。したがって、「モラル・マナーの大切さを自覚し、迷惑行為をなくそうとする意識を深める」ためには、広報ではなく、教育の中で、ある程度スケジュールを決めて重点的にやるべきと考える。

高速バスのバス停で、タバコや空き缶のポイ捨てが多いため、現実的な対応として、JTや西鉄バスと協力して、バス停で携帯灰皿を置くなど、ポイ捨てしないような仕組みづくりを実験的にできないか。

対外広報を各種団体と連携・協力して、今後どのようにやっていくかについて、少し文言を盛り込んでほしい。また、窓口を一本化できるのであれば、団体からも協力を求めることができると思う。

平成24年は北九州市にとって過去最大のコンベンションがある年と認識している。したがって、これから2年間は対外広報が非常に重要な期間になると思うので、本腰を入れて対外広報して告知していないと、駅前などが混乱することになる。ぜひ文言を盛り込んでほしい。

計画(案)は「人づくり」を第一にあげていることが重要である。理想は、重点地区での取り組みをやめても、抑止効果が変わらない社会を実現することで、そのためにも教育を粘り強く諦めずに続けていくことが大切である。

今後、観光客はますます増え、特に海外からの観光客も北九州市に流入してくるので、今、本腰を入れて対外広報に取り組む必要がある。

効果的な計画を考えるにあたって、我々にも何らかの形で予算についても意見をいえるような仕組みづくりや情報提供をしていただきたい。

モラル・マナーの教育を受けた子どもたちが社会に出てきても、大人がモラル・マナーを守っていないければ無意味なので、まずは地域のモラルアップが重要である。

市民意識を高めていくには、地域に住む人がどのようなかたちで取り組んでいくべきか、しっかりと踏まえていけるものになればよいと思う。

本当は過料4項目以外の10の項目を皆さんに周知していくことが重要で、4項目だけと思われると困る。

モラルマナーアップは短い時間で解決できるものではなく、迷惑行為をしない、させない環境づくりが大事だと思うので、巡視員を増やして高額な過料を徴収するという方法をとらなければ、なかなか我々の思うような地域環境はできないと思う。

今、学校の中が全面禁煙になっているが、中学校の体育祭が全市一斉にあるので、その時期に合わせてモラルマナーアップのキャンペーンをしてはどうか。

市外の方については、JRや西鉄バスなどの協力を得て、車内のニュースや駅の放送で周知を図るべき。

若者や色々な年代の方も一緒にキャンペーン活動に参加できたらいいと思うので、キャンペーン活動に参加しやすいような仕組みを考えたい。

過料をどのくらい徴収したかは、モラルマナーを測るバロメーターになっていると思う。徴収した過料を、モラルマナーアップのため有効な活動をしている人のために活かし、PRするようなよい方法はないのか。

(5) 会長まとめ

長期的な取組みと短期的な取組みのどちらも重要である。バランスをとりながら積み上げてまいりたい。

平成22年度からの5年間の途中であっても必要に応じ見直すし、かつ、ここに掲載されている事業が具体的にどのように進行していて、どのような成果があがっていくのかについて、モニターするのも協議会の役割と受け止めている。

今回戴いた意見を反映し、多少修正して次回協議会で再提案させていただきたい。表現については、私と事務局に任せていただき、次回の協議会でそれほど大きな修正がなければ、提示しているスケジュールに近いスケジュールで次の作業手順に進めていきたいと考えている。

6 次回の日程について

10月に次回会議を開催予定。